



いわぬま未来構想の 実施計画

市民ネットワーク
布田 一民

問 今後10年の市政運営の方向性を示す「いわぬま未来構想」の実現に向けて、大震災で失われた財源をどのようにして確保していくのか考えるべきである。税収額が現在の約2倍になるような大胆な発想で岩沼市国土利用計画の策定に当たるべきと思うがいかがか。

市長 中長期的な財政状況を踏まえ、健全財政を堅持できるよう努力をしなければなりません。復興計画を進めるに当たり土地利用等の方向性を踏まえ、創業支援や起業支援などの具体的な取り組みができればありがたい。積極的な企業誘致をまず行います。大胆な発想は非常に重要ですが、2倍は難しく、できるだけ努力をしたいと思っています。

生きがいセンター創設を

問 少子・超高齢化に伴い、急増する社会保障費の行政負担を今後継続しなければならぬ。誰もが100歳まで元気で長生きをして、保障費に（対し）優しい生き方が出来ることが望ましいと思

う。このことも行政として真剣に取り組むべき課題ではないかと考える。そのためにも、健康づくりの観点から、肺炎球菌ワクチンの財政負担や震災で被災した千寿荘の建設などが急務である。千寿荘の建設に当たっては、シニア世代が活躍できる場所づくりも含めた「（仮称）100歳生きがいセンター」の創設を実施計画に盛り込むように提案したいがいかがか。

市長 千寿荘の建設は現段階では計画に入っていないませんが、提案の趣旨はこれからのまちづくりに生かしていきたいと思っています。居場所づくりや働く場所の確保という視点で対応できるかと思っています。具体的な計画を立て、ご提案の趣旨等で可能なものは具現化するよう努力したいと思っています。ワフチンについては国の方向性を踏まえ、医療費の節減効果等もありますので、市として対応していきます。

問 私が、平成20年12月定例会で、仮設トイレではなく、誰もが使用可能なユニバーサルデザインのトイレが必要と質問し、議会の承

認を得て、現在の駅前公衆トイレが建設された。しかし、安心な駅前づくりの観点から交番の建設計画を明記すべき。改札の時間延長にもつながるのでいかがか。

市長 宮城県知事にも直にお話をし、地元の警察や県警本部にも働きかけてきました。市で交番自体



防災集団移転者への支援策

岩沼政策フォーラム
沼田 健一

問 住宅と土地の固定資産税の減免と今後の方向性はどのように考えているのか。

市長 購入した土地については、市の独自支援策として、平成27年度まで土地に対する固定資産税及び都市計画税相当額を補助することとしています。今後の方向性はその納税者との均衡を図りながら、被災者の状況等を見極め、慎重に方針を検討します。

問 借地料はどのくらいで、その場合の補助制度はどうなのか。

市長 固定資産税相当額を年額として、百坪で月額6500円程度になり、市の独自支援として平成27年度分まで借地料相当額を補助

を支援することは地方財政法の法令上、できないということもあり、引き続き早いうちに交番が設置されるよう努力していきます。

◎その他の一般質問
・子どもたちが夢と希望を持てる施策

することとしています。

災害公営住宅敷金免除は

問 災害公営住宅建設事業について入居の場合、敷金の免除は考えているのか。また、家賃に対する補助はあるのか。

市長 敷金の免除については、全額免除する方向で考えています。また、家賃については、同じような種類の民間住宅と比較して低い家賃となっていますが、低所得の方々に対する家賃負担の軽減化を図っていきたいと考えています。

問 災害公営住宅はいつ入居可能か。また、最終はいつになるのか。

市長 平成26年3月から順次建築